

第3回 旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮設計活用等検討委員会 議事録

■日時 2016年1月29日(金) 14:00～16:00

■場所 札幌市役所本庁舎地下1階 2号会議室

■参加者 委員：小澤 丈夫／北海道大学大学院工学研究院准教授
平井 卓郎／北海道大学名誉教授
角 幸博／北海道大学名誉教授
池ノ上 真一／北海道教育大学函館校国際地域学科講師
川上 佳津仁／札幌市観光文化局文化部長

オブザーバー：永井 雅規／札幌市都市局建築部建築工事課
山本 順一／札幌市都市局建築部建築工事課
高山 裕香子／札幌市都市局建築部建築工事課
吉野 聖／札幌市中央区土木部維持管理課
渡辺 一幸／北電総合設計株式会社
川上 雅彦／北電総合設計株式会社
木本 浩司／北電総合設計株式会社
酒井 秀治／株式会社ノーザンクロス
萩 佑／株式会社ノーザンクロス
渡辺 智紀／ワンダークルー
野村 聡／ワンダークルー
佐藤 俊義／北海道造園設計株式会社

事務局：櫛引文化財課長、田村

株式会社K I T A B A：神長、窪田、太田

傍聴：1名

1. 開会

2. 全体スケジュールの確認(資料-3)

(事務局)

- ・第4回検討委員会を3月に予定している。この時に、活用方針の策定と実施計画の確認、今後の進め方についてを予定している。
- ・「まちづくりサロンフォーラムの中で検討結果の報告を検討する」とあるが、まちづくり推進室で創成川東地区のまちづくりで検討を行っている中で、永山邸についての取組みのご報告をさせていただく。サロンでは施設に限った議論をする予定はない。

3. 地域住民等意見交換会の開催結果報告(資料-4)

(事務局)

- ・前回委員会では、開催結果についてはご報告させていただいたが、詳細についてこちらでご報告させていただく。
- ・平成27年9月26日に第1回まちづくりサロンがまちづくり推進室で行われ、創成東地区のまちづくりの検討の中で、この取組みについて5分程度の簡単な情報提供を行った。この時は、施設についての意見は特に出なかった。
- ・平成27年10月10日に第1回永山記念公園ワークショップを開催した。これは永山記念公園を改修するにあたり、地域住民を対象としたワークショップで、公園内を回りながら公園の魅力などについて意見交換をした。この中で、施設の話も若干させていただき、最後の5分程度で永山邸の事業や現況についての情報提供を行った。

- ・その際、地域住民からは、「建物が見えにくいからといってたくさん木を伐らないで欲しい」「ここは野鳥の休息地になっているので夜の明かりには注意が必要」、「ファクトリーにもカフェがあるのに永山邸にもカフェが必要なのか」などの意見が出た。
 - ・平成 27 年 11 月 14 日に第 2 回永山記念公園ワークショップを開催した。第 1 回目に出た意見を踏まえ、改めて説明会を設けようという趣旨で開催の案内を行った。内容は公園に関するワークショップで、最後に、第 3 回で永山邸の説明会の実施を案内した。公園に関するワークショップの中でも、施設に言及される場面があり、「これまでどのような経緯で検討が進められたのか知りたい」、「施設の方針が固まらないと公園の検討は出来ないのではないか」といった意見が出された。
 - ・平成 27 年 12 月 12 日に第 3 回永山記念公園ワークショップ&永山邸三菱鉱業寮施設説明会を開催。公園のワークショップを終えた後 1 時間程説明会を行った。施設の概要、事業の目的とこれまでの検討経緯、現段階の検討状況、今後のスケジュールを、パワーポイントを使用し、周辺住民に詳しい説明を行った。
 - ・その際に出た意見として、緑地環境・周辺環境への配慮については、「カフェにした場合の営業時間が気になる。現状と同じように、夜間門を閉めるなど、夜間の緑地環境や周辺環境に影響がないように配慮して欲しい」、「カフェの暖房から出る排気で、周辺の植物への影響や、匂い・騒音に対する対策が必要」というものがあった。
 - ・事業展開としてカフェをやることについては、「始めからカフェありきで考えるのは、市にとってもリスクなのではないか。年間 6,000 人の来場者ではレストランはペイしないと思う」、「ファクトリーの周りに以前は 4 軒のカフェがあったが、今は 2 軒に減ってしまっている。また、カフェ運営をするためには駐車場の整備も求められるのではないか」、「事業展開、収益事業は採算が取れるのか心配。面積 80 平米で初期投資を考えると難しいのではないか」、「客数のシミュレーションはしているのか」、「現状の 6,000 人の客数をもっと増やすためには、有料のカフェだけではなく、もっと気軽に座れたり、ゆっくりできるスペースが必要なのではないか」、「始めからカフェありきで考えるのではなく、1 階はオープンスペースにしておいて、きちんとした事業者がいればやるということにすればよいのではないか」、「運営にあたり収益事業が必要ということであれば、きちんとできるという形で事業計画をお示しただけであれば良いと思う」といった意見が出た。
 - ・また、屋外テラスについては、「テラスのベンチは、カフェ利用者だけではなく、誰でもフリーに座れるようになるのか」、「テラス位置は日陰で、夏の一時期しか使えないのでは。ウッドデッキで作るのか、使うときだけ椅子を置くような簡易なもので考えているのか」、「この辺りはカラスが多いため、テラス席は襲撃されてしまうかもしれない」、といった意見が出た。
 - ・展示活用については、「永山邸と三菱鉱業寮の展示や使い方は住み分けが必要となるのではないか」という意見が出た。
 - ・いずれのご意見に対しても、「この段階では、この事業は継続検討中のため、いただいた意見を踏まえて今後検討委員会等で検討させていただく」と回答している。
 - ・今後もこのような機会を設置して、話をしていきたいと考えているが、具体的な日程等は今後検討していく予定である。
- (角委員)
- ・様々な意見が出ているが、ひとつずつにレスポンスをするのか、それともできあがった結果だけ見せるのかなど、どういったことで考えているのか。
- (事務局)
- ・そのあたりも、今後検討していきたいと考えている。いただいた意見を踏まえてこのように進めていきたい旨をお話し、それに対して出た意見をまた次のワークショップで聞く。
- (角委員)
- ・特に隣のマンションの方が、色々と気にしているのではないかという部分が気になる。
- (小澤委員長)
- ・私もその部分について心配していた。今の環境をそのまま守ることに固執すると、おそらくカフェ事業の足を引っ張ってしまうし、やりすぎると住民の生活環境が損なわれてしまうため、バランスが難しいかと思う。

(角委員)

- ・今後の時間のかけ方である。

(小澤委員長)

- ・今後またご説明する形態は、住民意見交換会ということによろしいか。

(事務局)

- ・今のところはそういったかたちを想定している。

(平井副委員長)

- ・公園の樹木環境に対する意見があるが、札幌市として、どのくらい樹木を伐採する、剪定をどうするといった、共通の回答マニュアルはあるのか。

(事務局)

- ・それについては、共通の間引きマニュアルがあり、数字までは定めてはいないが、ケースの異なる公園ごとの進め方についてはおおよその方針はある。後ほど結果報告の中でお知らせできるかと思う。

(平井副委員長)

- ・数字はともかく、こういう明確な方針でどこにいても同じようにやっている、と答えられるようにしておく必要があるかと思う。

4. 活用方針素案について（資料-5）

(ノーザンクロス)

- ・最終的に活用方針をまとめるにあたり、資料-5の表紙の右下に、前回出た内容について一通りまとめてある。
- ・池ノ上委員からご指摘のあった「もっと大きなコンセプト」だが、それはいってみれば、これからの文化財の在り方をコンセプトとして示す必要があるということである。
- ・活用方針のレイアウトの表示に若干変更を加えている箇所がある。
- ・先ほど、カフェ・レストランについて、地域の方がかなり心配されているという話があったが、その点も踏まえてデザインについて検討を加えてきた。
- ・今後どのような運営体制・方針をしていくかで、カフェの運営時間をどうするかについても、先ほどの話を伺ったので、その辺りのことも含めている。
- ・5ページで、これからの文化財の在り方、その中で永山邸がどういう役割を担えばいいのかとしていくと、その言葉が今後整備、運営をしていく中で非常に重要になると理解している。それを検討するにあたり、まず札幌市の上位・関連計画・事業の中で、この永山邸がどういうふうに位置付けられているかを、ページの左側で整理している。
- ・3つの大きな計画の中でキーワードとなるものは、「新たな魅力の創出」、「積極的な活用」、「歴史観光文化」、「都市の基礎」、市民の誇りというのは「シビックプライド」に繋がる、そういったもので、これから文化財を担っていくということが見えてくると思う。
- ・まちづくりの視点からいくと、創成東地区はまちづくり活動拠点のひとつである。また、創造的な活動などを生み出していく、他の文化財や歴史的建物とネットワークしてツーリズムを生み出していくことなどが、見て取れるかと思う。
- ・右上には、創成東地区におけるまちづくりとあるが、さっぽろ都心まちづくり戦略の中でも、重点地区という位置付けである。様々な方針が定められている中で、今後永山邸ではそれらをどう受け止めていくか、どういう役割を果たすのかという、大きく2つの整理の中でビジョンを考えたいという内容になっている。
- ・そのビジョンは大きく二段構えにしており、札幌市でこれから目指していく文化財の在り方というものを受けて、その中で特に永山邸がそれになるのではないかという書き方にした。
- ・「市民が誇りと愛着を持って」という部分が、シビックプライドであり、これからは市民が主体となって、この文化財を守り、活用していくという意味を込めた。
- ・「守り育てる」という部分は、保存することと活用だが、活用はそこにもう少し創造性を加えながら、自分達でその場所をつくり上げていくイメージを持たせた。
- ・更に「歴史観光文化」の言葉を加えて、札幌市全体で目指す文化財といった理解となる。

- ・その中で、基本計画にあるとおり、インフォメーション機能という情報を発信する役割や、集客する事業、多目的に活用することが三位一体となることがこの施設の特徴であると謳った上で、それらがこの地域のまちづくりの拠点だ、という書き方にしている。
- ・長くなったことで、池ノ上委員が前回お話をされていたようなキャッチーさはない。そういった部分でもご意見をいただければと思う。
- ・7ページの活用方針図、ゾーニング・動線について、カフェ・レストランの出入りの仕方だが、前は玄関に入り、正面の階段をくぐるようなかたちでアクセスをした。ただ、大切なのはこの建物の中廊下であり、そちらから部屋に入ったときの記憶は継承すべきだということなので、そちらに出入り口を設けるが、やはり事業のオペレーション上、2方向からでは、煩雑になり捌ききれなかったり、客席数が減ることで事業採算の課題等がある。基本は廊下からアプローチするという考えになる。
- ・2階の多目的だが、前は今バックヤードと書かれている北側に水屋があったため、そちらをスペースCとしていた。だが建物の性格を考えると、南側の非常に景観の良い場所を皆で広く使うことが理想的なので、水屋を多目的スペースA屋に新設して移すこととし、Cを南側に変更している。
- ・10ページのカフェ・レストランのレイアウトデザインだが、今申し上げたようにエントランスを変更することとした。また、廊下に接している壁が構造上非常に大事なもののため、前回壁部分をオープンにして中のカフェ部分が見えるような設えもあるのでは、とご提案したが、それは技術的にも建物の記憶としてもやりすぎ感があるという話があり、ここはシンプルにカフェとし、今の建具を使用して出入りすることとした。
- ・正面の空間を塞ぐ形にしたが、この建物を訪れる人が、まずカフェを認知する場所であり、大切な顔になる場所なので、奥行き感があるように開放部を設け、視線の抜けがあるように考え、そこに客席が一部減った部分をここで補填するという考えである。
- ・厨房の設備機器についても、検討を進めているところである。今考えられるものとしては、ここにあるリストの設備になるが、今後設備設計を進める中でも調整していきたいと考えている。
- ・これらを踏まえて北電総合設計が設計したものが、右下の図になる。設計の中で変わっているのが、オープンテラスの形状である。壁にドン付けしていた案だったが、やはり屋根から垂れた雨が跳ね返り壁に当たることで建物の見栄えを悪くしてしまうことのないように、犬走りを設ける。その代わり、空間が多少狭くなるので、ここの樹木を抱きかかえるように、南側にテラススペースを拡張するようなイメージを持っている。当然この樹木に関しては細心の注意が必要である。樹木の地下部を傷めないように、設計・施工をする必要がある。
- ・11ページの左側は、設計サイドで描いてもらったカフェ・レストランの内観イメージパースである。非常に建物の歴史性を尊重し、今まである意匠を継承するような内容になっている。天井や白壁、外に向けた窓のデザインなども歴史を感じさせるもので、こういったものを大切にしたいと思う。
- ・更に今後、事業者がこの中で運営をする際に、家具・什器類は事業者側で用意するので、そのコントロールをどうするのが非常に重要になる。そこで、活用方針の中で2点謳っておきたいことがあり、顔となる壁面の奥行きやサインと一体的になるようなデザインというものをごここでしていけないかと思う。ただ、ここは座る場所になるため、玄関を入ったらガラス越しに目が合ってしまうのではないかと、居心地はいいのかといった声も一部からはあった。今後設計サイドと詰めながら考えなければならない課題である。
- ・家具・什器のデザインについては、馴染まないものを勝手に入れられては困るので、12ページに、今後どういう家具デザインを誘導していくかというスキームのようなものを示した。仮に「重厚感」と「軽快さ」、「暖かさ」と「冷たさ」という軸を位置づけた上で、この施設としてはどこを狙っていききたいのかということ考えた図である。私達は青の破線楕円で囲んだ辺りの、現代的で様々な年代の人が使う時に受け入れられやすく、暖かみも軽快さも、かつ歴史も重んじているという、中心からやや軽快さ寄りと考えている。こういったものも少し整理しておく必要があるかと思う。
- ・13ページの管理運営の考え方の入館料については、前回も冒頭で述べたように、様々な方や地域の方に気軽に使ってもらうため、現状と同じ無料を想定していきたいと考えている。

- ・更に議論が必要だが、退館時間については、現状では観覧施設として9時から16時となっているところを、豊平館等と同じように、夜間使用する人のため、貸室を9時から22時と夜も含めて検討できないかと考えている。
- ・併せて飲食店舗についても、事業性の検証を考えなければならないが、他と合わせて22時として整理されていると分かりやすいかと思う。ここはまだ事業者と詰めきれていないところである。ただ、近隣住民の方からの、音や野鳥の止まり木になる森の整備といった意見に対して、特にテラスなどをどういった運用の仕方にしていくかが課題である。
- ・庭園についても、9時から門扉を閉めるのが20時となっているが、飲食店へ来ている人をどうするかということがあるので、建物西側の北3条通側の門扉は、夜22時まで開いている想定でいる。
- ・14ページ右側の貸室利用についてだが、事業料金について条例で定めていかなければならない中で、方針としてある程度この委員会で方向性を考えたい。多目的スペースA・B・Cの大体のサイズを記載しているが、なるべく色々な方に気軽に使ってもらえる料金体系で、公共施設であることも踏まえ、安価な設定をしたいと思っている。参考として、豊平館、時計台、資料館を挙げているが、これらを見ると、Cより若干大きいAとBについては1時間1,000円前後、Cについてももう少し低い価格というのが見えてくる。ただし、これらは周辺の公民館などとの比較もこれから加えたいと思う。
- ・15ページのカフェ・レストラン事業については、採算が取れるのかといった意見が、この委員会でも近隣の方からも言われている中で、私達が考えている具体的な条件としては、82平米程度の広さを確保することで、近郷の家賃を仮に設定してみると、事業収支シミュレーションでは以下に示されるようになり、採算が取れるということがいえる。客単価は、昼900円、夜2,500円とした上で、例えばテラスを入れないかたちでのシミュレーションをしても、最低ラインの事業性を保つことが確認できる。冬の期間は使えないと思うが、テラスを入れると、事業を非常に好調に持っていけるというシミュレーションをしている。
- ・指定管理料についても今後検討しなければならないが、通常の指定管理業務は、受付・案内、レンタルスペースの貸出管理、建物の歴史的価値の発信（インフォメーション機能の運営）、警備清掃、備品管理、ボランティアガイド運営を想定しており、こういった業務を指定管理として担う方を選定していくことになる。他の文化財を参考にしながら、適正な指定管理の設定が必要である。
- ・トータルブランディングについては、前回も出したが、最後に活用方針として検討を期待する部分としては、建物をデザインし、事業者を選定し、カフェ・レストラン機能が入るところまでが決まったとしても、その後のカフェ・レストランを、どう永山邸の歴史的建物を活かしてブランド化していくかということが非常に重要な部分になってくるかと思い、ロゴのデザインなどに限らず、トータルでコントロールし、考えていく場が必要だと思っており、それらを活用方針の最後に一文として含めた。

(小澤委員長)

- ・全部で7章立てになっており、1章で建物の価値の再整理と活用の視点。2章で建物の保存・保全及び外構状況に関する課題。3章は目指すべき施設像ということで、今回新しく入れていただいたが、札幌市の上位・関連計画・事業の位置付けといった辺りを確認いただいた。それを受けて、4章で活用方針のまとめ。5章で各スペースの具体的な活用イメージ。6章で管理運営の考え方。最後に、7章でトータルブランディングに向けて、ということだった。
- ・まず、1. 建物の価値の再整理と活用の視点から、4. 活用方針のまとめ、までをまとめていく。

(池ノ上委員)

- ・とても丁寧なまとめいただき、分かりやすくなっている。活用の視点、方針との整合性は確認していかなくてはならないかと思う。
- ・5ページ「3. 目指すべき施設像」で整理されているビジョンの出し方について、歴史とあるが、札幌市全体におけるこれからの文化財の在り方のビジョンというのは、元々あったものか。

(事務局)

- ・札幌市まちづくり戦略ビジョンでは「歴史観光」というのがあるが、特に「市民の誇りと愛着」といったような標語を掲げているわけではない。
(池ノ上委員)
- ・まちづくり戦略ビジョン、文化芸術基本計画、この永山邸の基本計画を基にして、出したということか。
(ノーザンクロス)
- ・そうだ。
(池ノ上委員)
- ・この中に出てくる「歴史観光文化」というのは、もう既にどこかで使われているものか。
(ノーザンクロス)
- ・永山邸の基本計画の中にある。
(事務局)
- ・これは単純に時系列の問題であり、文化芸術基本計画ができた後に、永山邸の基本計画ができたため、表現が若干異なっている。
(ノーザンクロス)
- ・戦略ビジョンの中では観光という言葉が強く結びついており、それが統合して「歴史観光文化」という言葉ができています。
(池ノ上委員)
- ・「歴史文化観光」というのもあるかと思う。先ほどの説明の中では、歴史、観光、文化の三本柱ということだったので、中点で区切りを入れて「歴史・観光・文化」というのもあるかと思う。
- ・永山邸の施設像についてだが、ここで三位一体と、まちづくりをもう少し具体的に、永山邸は一体何を指そうとしているのかというのを表現できないかと考えていた。
- ・多目的の利用や集客事業、情報発信などは、まさに機能や目的だが、もう少し上位の言葉や使われ方、スタイルにつながる言葉として、「市民が多様な活動を通して、北の開拓・産業発展ストーリーを理解し、新たな時代を紡ぎだす拠点」というものを考えた。
- ・北の開拓や産業発展ストーリーを背景としながら、ここを使っていくのがひとつのコンセプトかと思う。そして使っていきながら、新たな時代・歴史を紡ぎだしていくところを表現できれば良いかと思う。
(小澤委員長)
- ・今ご提示をいただいた、市民の多彩な活動というのが主役になるかと思う。
- ・単に「歴史」ではなく、開拓・産業・発展ストーリーというのは、一步踏み込んだ永山邸の位置付けをはっきりイメージできるし、ただ歴史を知るだけでなく、新たな歴史を紡ぐというのであれば、時系列で将来に向かって繋げていくイメージになる。よく一般的に使われる言葉よりは力強くなると思った。長さの目処をつけていただければ良いかと思う。
(川上委員)
- ・今回出された永山邸の施設像について、少し厳しい言い方をすると、これだと旧永山邸・旧三菱鉱業寮でなくても、どこの施設にも使えてしまう。旧永山邸・旧三菱鉱業寮らしさが抜けている印象を受ける。先ほどの池ノ上委員の言葉のように「北の開拓」といったフレーズが必要なのではないか。
- ・市としては、他の文化財のようにただ大事に守るというだけではなく、観光資源としても活用していくし、ご意見を頂いているように市民のコミュニティスペースとしても活用し、建物の新たな価値をつくり出せば良いと思う。
- ・池ノ上委員がおっしゃっていた「紡ぎだす」という表現は、とても良いと思う。
(角委員)
- ・どうすれば「らしさ」が出てくるだろうか、と考えるとなかなか難しい。
(池ノ上委員)
- ・建築的価値の希少性と空間構成の部分で、何かもう少し出していきべきだろうか。
(角委員)

- ・旧永山邸の持つ歴史を打ち出しつつ、三菱という産業の歴史、三菱のクラブとして使われてきた歴史、永山武四郎そのものや、開拓使、屯田兵と、キーワードは多く出てくる。それらを次のステップで、活用しつつどう活かしていくかだろうと思うが、なかなか難しい。
- ・「記憶の中」というのは、例えばそれぞれの展示スペースの中にあるということでのいいのか、もう少しアクティブな何かを入れていけばいいのか。
- ・例えば、すぐ近くにあるビール会社やワイン工場のような施設があるが、そういった地域の特性がクリアに出ていないように感じる。そういったものを入れていくと、先ほど川上委員が言っていたような永山邸や三菱鉱業寮らしさが出てくるのではないかと思う。
- ・地域とのかかわりという点では、三菱鉱業寮自体は、非常にクローズな使われ方をしていた。言葉では色々出て来るが、具体的どうというのは難しい。ただ、地域の人たちにとって大事なものだということは、文章の端はしに出てきている。その部分を上手に汲み取った活用の仕方をすることが、結果的に「らしさ」が出てくるかと思う。
- ・単純にカフェにするのではなく、カフェになる時にもそこにストーリーがあり、情報発信も、札幌全体の中で綴るのではなく、ここでしかできないようなものを発信し、この創成東地区にあるという部分を大事にすることが大切かと思う。
- ・文化財という建物の使われ方として、永山邸の中で、小学生がノートを開いて勉強をしたりするのは、他ではなかなかありえないことである。もしかすると、管理人の方の個性によって許容されている部分もあるのかもしれない。
- ・では、そういう使われ方をしているから何かしようということと、先ほども出ていた有料にするのかという話など、ひとつひとつの課題を細かく整理していく必要がある。

(池ノ上委員)

- ・キャッチフレーズなどは、またその後に出てくればいいのかも。まずはビジョンである。

(角委員)

- ・私達が長く携わっているために、普段当たり前前に思っている事柄であっても、池ノ内先生などから出る疑問の解決策の中に答えやヒントがあるのかもしれない。

(平井副委員長)

- ・池ノ上委員の方向で詰めていくといいかと思う。
- ・角委員が言われたような繋がりを考えると、情報発信・集客・多目的利用と書いている中の、集客というのが、引っかかる。採算ベースを考えて客を集める、というよりも、人の集まる拠点にする。
- ・そのためには、かつて永山武四郎が開拓に尽力し、その後東京の大手資本が入ってきて、北海道の産業の中心となった。そして、現在北海道に住む人間が、何を切り拓けるかという拠点にする、というのがストーリーとしてはきれいだと思う。
- ・例として、2階にある和室スペースで車座になって何か考えるスペースをつくろうというのがイメージとしては繋がりやすい。
- ・「歴史・観光・文化」は並列ではなく、「歴史・文化と、それを活かした観光」であるべき。

(角委員)

- ・事務局がこのようにまとめてくれたので、今ここで、こういった議論ができる。

(小澤委員長)

- ・改めて見直すと、情報発信は良いとして、集客事業・多目的利用の部分だが、多目的利用といっても様々あると思うので、ここの良さを強調できるようなかたちで活かすようなものではないといけない。なんでもありで、人が集まればいいのかというふうになってしまっている。

(角委員)

- ・その使い方という部分が、先ほど川上委員が言っていたのも、この辺りのことではないかと思う。

(平井副委員長)

- ・旧永山邸・旧三菱鉱業寮を訪れる人は、道外の観光客ではなく、例えば地元のNPO活動や地域の人々が会合に使うことなどを想定しているかと思う。

(ノーザンクロス)

- ・「地域の居場所」ということかと思う。

(小澤委員長)

- ・居場所や、根ざすことのできる場のようなものかと思うし、そうでないと意味がないと思う。
- ・議論には出ていたと思うが、基本構想の中で表現しきれていなかったかもしれない。使用する言葉の検討が必要かと思う。
- ・5ページの右下に「札幌市全体における」とあるが、これは全体の話になるのか、修正や議論などは行うのか、このまま進めていくのか。

(事務局)

- ・まちづくり戦略ビジョン、札幌市文化芸術基本計画、旧永山武四郎邸基本計画というのは、既に策定された計画であり、それを踏まえて今後この施設をどういうふうにしていくかというのは、これから新たに示していけるので、あくまでこれをたたき台にこの事業を進めていくという位置付けで捉えていただければと思う。

(小澤委員長)

- ・「市民の誇り」といった言葉が出てきたが、これらも併せて検討していったほうがいいのではないか。

(事務局)

- ・「市民の誇り」というのは、今回新たに加えたものなので、併せて検討していただければと思う。

(平井副委員長)

- ・今後同様の案件が出てきたときにも、これは参考のひとつになっていくのではないかと思う。

(角委員)

- ・この札幌市全体における文化財のあり方のビジョンというのは、他の文化財への波及ということもあり得るかと思う。
- ・使用する言葉は、市民に訴えかけ、また受け入れられるようなフレーズでないといけない。先ほどの、歴史・観光・文化の並びは少し違和感が出てくる。

(川上委員)

- ・札幌市全体として、確かに観光という大きな方向性に向かっているが、あくまでも主役は市民である。札幌市民の活動や地域性のようなものに賛同していただける観光客の方が増えて欲しい。
- ・なんでもかんでも観光に、ということにはならないと思う。それぞれの施設で観光の向き不向き、市民の人々の考えがあるので、各論で考えていく。

(平井副委員長)

- ・札幌市文化芸術基本計画のなかの文言で、「新たな歴史観光スポットとして」とあるが、違和感があるのでスポットというのは取ったほうが良いのではないか。

(ノーザンクロス)

- ・池上委員の先ほどの言葉が一番のヒントとなった。角委員の言われた、市民の子供達が気軽に勉強ができる、地域の居場所を継続していこうという意味を込められれば良いと思う。

(小澤委員長)

- ・旧永山邸に関しては、観光ということよりも、どちらかという地域住民に軸足を置いているのではないかと考えており、それが伝われば良いと思う。

(角委員)

- ・基本計画をつくった際には、旧永山邸と旧三菱鉱業寮は共に、和洋折衷の建物や公園としても非常に良いものなのだが、距離が遠いこともありなかなか徒歩では見に来てもらえないということがあった。その良さがでて、結果的に観光客も来ることができるようになればいいのだが、その辺をファクトリーとうまくやりたいという話も出ていたかと思う。
- ・キャッチフレーズの問題だけでなく、位置づけをきちんと行うことが、集客にも繋がってくるかと思う。

- ・日本人が考える、従来の観光という言葉のイメージが悪すぎると思う。本来は、観光というのは一過性のものではなく、もっと何度も訪れ、そこで様々なことを学ぶものである。観光の概念そのものが、本当はもっと良いものなのだということも含めて発信できたらいいと思う。

5. 耐震補強含む保存活用工事基本設計について（資料-6）

（北電総合設計）

- ・資料1枚目は、改修後の1階平面図で、カフェ・レストランは中廊下のこちらのほうから入るように変更した。
- ・正面玄関に入ってから、建具を新設し、カフェ・レストランの中が垣間見られるように変更した。
- ・廊下1から新しい男女トイレを利用できるように変更し、既存のトイレは多目的トイレとして改修する。
- ・資料2枚目は2階の平面図だが、ノーザンクロスの話にもあったように、南側に多目的Bを設け、北側にバックヤードを設けた。また、多目的Aに水屋を新設した。
- ・2階のトイレは男女兼用に改修する。
- ・ロビー・ホワイエ部分は、物入れ部分の壁を取り払い、広く利用できるようにしている。
- ・資料3枚目は立面での東側・北側の改修前の内容になるが、それを次の資料4枚目で改修する内容になる。東側はバリアフリーで、車椅子の出入り口を設ける。ただし、上の屋根の勾配で雨水が落ちてくるので、隣にあるポンプ室の屋根の高さも変更し、一緒に下屋を新たに新設し改修する計画で、東側は考えている。
- ・北側は、元々ある窓を改修し、凸窓の横棧付のもので改修し、全体で違和感のない構成に変更しようと考えている。
- ・資料5枚目は、西側と南側の現在の立面図で、次の資料6枚目が改修後の立面図になる。南側はカフェの側になるが、1階部分はモルタルを撤去し、板張りを新設する。カフェになる1階窓だが、ここはどこかの時点で一度完全に改修されており、窓の形態も違和感があるため、改修を考えている。
- ・資料7枚目は、厨房側から入り口側を見たパースである。天井については、隣室の格子天井をモチーフにし、床はフローリング、壁は白壁、窓は横棧付のモチーフ、照明は吊り下げ傘付のタイプで考えている。
- ・資料8枚目は、入り口側から厨房側を見たパースである。
- ・資料9枚目は外構回りで、デッキや広場を検討しているイメージである。正面入り口前は広場で、樹木を増やした石張りの広場で考えている。ここを上を園路と繋ごうと考えている。
- ・東側は車椅子駐車場を新設し、スロープでアクセスする。スロープの途中でアクセスできるような地盤嵩上げ案の木製デッキテラスと、次の資料10枚目では、テラスの床を上げない石張りの地盤フラット案の2案を掲載している。それぞれの案についてもご協議いただきたい。
- ・資料11枚目と12枚目には、それぞれのイメージ図がある。
- ・木製デッキはテラスを一部上げて、スロープから直接アクセスできるが、1階のカフェの床から、約37cm下がった状態である。どうしても地盤等が上がるため、安定上手りを回さなければならない。テラス内の木製デッキの中に既存の樹木があるイメージである。
- ・もうひとつの案は、地面部分に石張りのテラスを設けるが、アプローチからは段差ができるため、スロープから芝のほうに下りるなどしてアクセスすることになる。こちらは1階のカフェから約60cm下がった床になる。
- ・資料13枚目は、現況のサイン配置図になる。こちらのサインを、改修統合し作り直すため、次の資料14枚目に新たなサイン配置方針検討図を掲載している。北2条通り側にG1サイン、ファクトリー側にG2サイン、北3条通り側にG3サイン、北3条通りの旧永山邸へのアクセス部分に施設の館名サイン、G5サインには車椅子駐車場への案内サインを、それぞれ新しく設置したいと考えている。

- ・基本的には、人の流れに合わせて、永山邸を認識させ誘導するような方向でのサインと、ファクトリーからの人の流れもあるので、アイキャッチになるような案内サインを考えている。
 - ・方針としては、永山邸を思わせるようなデザインを考えている。
 - ・次の15枚目に、実際のサインデザインイメージを掲載している。G1・G2は、永山邸・三菱鉦業寮と同じく、軟石の基岩を使用しその上にサインがつくように考えている。公園全体のマップの中で、旧永山邸及び三菱鉦業寮の位置を明確にして誘導する。
 - ・G3の北3条通り側は、マップと共に北3条通りの歴史についての解説も付け加えたいと考えている。
 - ・G4の施設の名称サインについては、名称、開館時間等の情報、カフェ・レストランスペースが入ったものと考えている。
 - ・G5は車椅子利用者への誘導サインを考えている。これらサインの中身についてもご検討いただきたい。
 - ・資料16枚目からは、耐震補強関係の実際の設計図になる。薄緑が新設の布基礎、赤が増設の布基礎、水色が新設の土間とスラブである。
 - ・資料17枚目に、実際の新設・増設の布基礎についての工法論の図面を記載している。
 - ・資料18枚目は、実際の床伏の改修についてである。ピンク色部分で、水平構面の補強させていただく。各4色に塗られたEWが耐震補強壁にする部分で、色によって工法が違い、耐力壁・準耐力壁と分けて工法論を記載している。
 - ・資料19枚目が、2階の床伏の改修についてである。先ほどの1階部分と同じように、水平構面の補強と各耐震壁の補強となっている。
 - ・資料20枚目が、小屋伏の改修についてである。金物を使った補強として記載している。
 - ・資料21枚目が、屋根伏の改修についてである。金物等を使った補強を記載している。
 - ・資料22枚目が、小屋裏補強の軸組図を記載している。
 - ・資料23枚目が土台関係についてで、新設するアンカーボルト、柱の中核の金物、耐力壁の位置と工法論を記載している。
 - ・資料24枚目が、同じように2階の補強関係について記載している。
 - ・資料25枚目からは、実際使用するポリエステル繊維の耐震補強壁について、どのような仕様に基づいて耐力を補強していくかを記載している。
- (角委員)
- ・立面図で「耐震改修に伴う板張り撤去・復旧」とあるが、工事した時に下見板の新しく張り替えた部分と現状維持の部分とはどのようなになるのか。
- (北電総合設計)
- ・そこはやはり実際の工事の中で見て、目立たないようにしていかないとならない。
- (角委員)
- ・図面は概観的なものと考えていいのか。
- (北電総合設計)
- ・そうなる。
- (角委員)
- ・やはり一番大きいのはテラスをどうするかという点である。テラスの雪の処理の部分で、南側は雪が大量に落ちてくるため、ウッドデッキは見た目が格好良くても、後々トラブルが出てくるのではないかということである。
 - ・住民が気軽に使えるようにするという点では、内の人を外に出て来ようとするときに、手すりや結界を作ってしまうといいのか、ということである。
- (小澤委員長)
- ・雪が大量に落ちてくるが、手すりをどうするかは案はあるのか。
- (北電総合設計)
- ・雪で壊れないよう、冬は手すりを外し、春になったら取り付けられるような、着脱式のものと考えている。
- (角委員)
- ・南側テラス図の斜路のスロープだが、パースでも違和感がある。

(小澤委員長)

- ・外構図がウッドデッキで描かれている。テラスにすると、手すりの問題もなく地面に出られる。

(北電総合設計)

- ・フラットだと先ほどの手すりの問題はなく、犬走りもあるため雨水の跳ね返りもない。ただし、どうしても一番下にすると、外のスロープや園路からアクセスする際に道からは段差になるという問題が出てしまう課題がある。

(平井副委員長)

- ・私も雪が落ちることが気になる。切り返しのところからも、たぶん雨水が集まるのでその管理も含めてということになる。
- ・カフェの中からのものを運ぶことを考えると、段差が少ないほうが作業しやすい。
- ・ウッドデッキの手すりを外しても、確実にデッキに雪は落ちる。また、時間の経過と共にペンキがはがれてきた場合の塗り直しをする際などに、外壁とデッキの隙間の狭さで作業がしにくいといった問題が出ないかなどは気になる部分である。
- ・別の素材を使うと雨水の地中への浸透性に問題が生じるかもしれないが、樹木の根が吸収する雨水の多くは樹幹を伝わって地中に浸透したものだとしている。そうであれば、ウッドデッキと樹幹の間にある程度隙間があれば、そんなにすぐ枯れたりすることはないのではないかな。ただ、浸透性の無い素材で地表面を覆った場合は、雨水が外に流れて行くことになるだろうし、その水の排水路をどこに設置するかなどの問題は出て来るかと思う。
- ・落ちてくる雪の処理をしやすくすることが重要になる。

(小澤委員長)

- ・カフェ・レストランは室内なので靴を脱ぐし、外のテラスは靴を履かなければならないので、あまり出入りする感じでもないかと思う。
- ・様々な意見が出たが、テラス部分はウッドデッキに固執しないほうが良いかと思う。

(川上委員)

- ・開かれた建物ということであれば、市民に利用してもらおうと考えると、段差がなければ、例えば親達の子供連れで利用する際には、手すりがなくフラットでオープンな空間のほうが、子供を遊ばせておいて、それを眺めながら親達はお茶を飲み、寛ぐことができ使いやすいかと思う。

(角委員)

- ・例えば、庭に遊びに来た人が、ここで椅子などに座って持参したものを食べる。持参したものを食べてよいかどうかとも決めなければならないが、その中の何人かがコーヒーを注文となった場合、お店の人は大変かもしれないが、施設の内側からだけでなく、テラスから外に対してのサービスも大切である。例えば、最近のホテルのロビーなどでは、宿泊客でない人のコーヒーなどの注文にも答えている。
- ・せっかく南側を綺麗に改修するのだから、手すりなど変に付加物がないほうがすっきりしていいかなと思う。
- ・床には浸透性のものを使用するのか、滑らないようになど、もう少し材料を考えなければならない。
- ・樹木の周りももっと広くなければならないと思う。

(池ノ上委員)

- ・樹木の回りの処理については、もっと広くなるのではないかと思う。

(平井副委員長)

- ・特に浸透性の高いものを選ばなくても、地表面を覆う材料を設置する際に、部分的に隙間を設けるなどの対策を取っておくと、地中に水が抜ける。全体的に中央かどちらかの側かに水勾配をつけ、低いところから地中に排水することは可能である。技術的にはできるが、凝ったことをしようとすると、どうしてもお金がかかってしまう。

(小澤委員長)

- ・カフェの内部のレイアウト案についてなにかあれば。

(角委員)

- ・中廊下からアクセスする案というのは、今までも当然あった。

- ・先ほどノーザンクロスより話のあった、正面から中が見えるというはなしだが、多少開けないと中で何をやっているか分からず、寂しい壁になる気がする。品良く、中に魅力的なカフェがあることを含めて、デザインの勝負どころかと思う。

- ・階段の下に入っていきより、逆にロフトのようなカウンター式のおもしろい感じにするなど、ひとつのカフェ・レストラン内で場所によって雰囲気の違いを楽しめるデザインに成り得るかと思う。

(小澤委員長)

- ・カフェ・レストランのレイアウトで、何かしらの開放は必要だと思うが、どのような大きさの開放なのか。あまり小さい開放だと、カフェ・レストランの場所を示すサインでしか判断できなくなるかと思う。ただ、変な開け方をした場合、玄関から入って中に居る方といきなり目が合うなどして気まずい思いをするのではないか。カフェ・レストランの顔としての使われ方かと思う。

- ・階段が迫ってきているので、3次元的におもしろいと思う。

(ノーザンクロス)

- ・今後、空間の特性を生かしたものにしたい。

- ・階段周りについては、歴史的なものと現代的なものの対比をさせている。

(小澤委員長)

- ・ひとつ気になっていたことで、資料5の11ページで「カフェ・レストランの顔となるような壁面のデザイン」としていくつか例を挙げていただいているが、こちらについてカフェ・レストランとの間をどうするかという説明を頂きたい。

(ノーザンクロス)

- ・この時点では、まだ中の人と目が合うといった先ほどのような意見はなかったのだが、イメージとして持っていたのは、階段室周りは手すり部分も階段部分も、非常に歴史的な意匠であるが、そこを対比させる意味で新しくつくるものなので、非常に現代的でシャープでシンプルで、しかも開放感があり大きいという方針でここをつくることで、非常に奥行きを感じる。なおかつ、店のブランディングのサインというのがファサード自体にデザインされているというのが、この象徴的な壁面になるのではないかということで、このイメージカットを入れた。

(小澤委員長)

- ・壁を出来るだけいじらないようにしていくのか、変えていったほうがいいのか。どうしていくのが良いのか私もまだわからない。

(角委員)

- ・踊り場から更に上がる部分を、その勾配まで見せるのか、そうでないのかでも違う。

(北電総合設計)

- ・勾配は見えない。現状では、階段下は斜めに仕上げていこうと考えている。

- ・踊り場は平らで、そこから上に上がっていく。例えば、開口部を見た時に、内観イメージでは、右側の方の二つ開口部を設けているが、同じレベルまでは開けられるということである。ガラスから下のほうに斜めに下がってきている。

- ・左側の壁になっている部分だが、ここは耐力壁にしなければならない。また、サッシとサッシの間は柱なので取ることはできない。そういった制限の中で、どこまでできるか。

- ・先ほどご指摘のあった、中のカフェ・レストランの目線の話だが、カウンターとの関係、人数との関係、そういった中で、どこまでどのようなデザインにしていくのかということがあるかと思う。

(小澤委員長)

- ・籠る感じになるのか、玄関とダイレクトに結びついているような感じになるのか。ショーケース的に見せるということもあるかもしれない。

(北電総合設計)

- ・ご意見がたくさん出ているが、実施設計の期限が3月中頃に迫ってきている。札幌市の意向もあるし、工法的には様々なことが考えられるが、できれば現場が始まってから、設計変更の中で変えさせていただくなどで、対応させていただければと思う。

- ・今はひとまずこれで実施設計をまとめていきたいというのが、実際のところある。

(小澤委員長)

- ・事務局にお伺いしたいのだが、進め方として、実施設計は実施設計であるのだが、この部分は非常に大事だということが委員全員の共通の意見なので、改めてそこを検討していく時間をいただいて、反映できるような進め方は可能か。

(事務局)

- ・基本的に発注段階前までに決まっていて、基本的な部分が変わらなければ、可能である。ただ、予算的な部分もあるかと思うので、一概には言えない。
- ・発注時期は、5月の連休明けである。
- ・予算とスケジュールの制約がある中ではあるが、別途検討する場を設けて、継続して検討いただくということは可能かと考える。

(角委員)

- ・そもそも、窓っぽくするか、開口するか。また、高さをどうするか、という2つしかない。そんなに大変ではないのではないだろうか。
- ・予算内で設計変更できるような形も、当然シミュレーションしておいて、実施設計では一番ふさわしいと思ったものを改めて選ぶということもできるかと思う。

(北電総合設計)

- ・一番最大限お金のかかか方法で設計をひとまず選択して、その中で案を提案し、合意形成が得られたものをでやらせていただくという方法だと助かる。

(小澤委員長)

- ・ではまた次回にこの話はさせていただきたいと思う。

(川上委員)

- ・サインの関係で2点ほどあるのだが、人の動線ということでは、多分ファクトリー側が多く来るということで、ここを意識して西側中心に案内をしているが、東側から人が来た時にサインというものがほとんどない。誘導のためにもこちら側にも1箇所2箇所サインが必要かと思う。
- ・外国人向けの案内サイン、案内・説明サイン、名称サイン、誘導サインについて、外国語対応というものが必要になるかと思う。

(北電総合設計)

- ・外国語対応に関しては、札幌市のガイドラインに沿って、日本語、英語、韓国語、中国語繁体字、中国語簡体字には必ず対応させる。
- ・東側の方は特に考えていなかったが、1箇所追加という形で対応できる。

(角委員)

- ・東側北2条通側のサインについては、設置しないのか。

(平井副委員長)

- ・知っている人だけ知っている入り口としてあってもいいのではないか。全てを観光客が通りやすいようにしなくても良いかと思う。

(角委員)

- ・住人は分かっているから、サインのないところから入るということも、確かにそういう考え方もある。

(小澤委員長)

- ・サイン配置方針検討図のTA3-3付近のアプローチにもサインはあるだろうか。

(事務局)

- ・どこをメインアプローチにするかということか。

(北電総合設計)

- ・公園改修計画とも絡むかと思うが、我々としては、このサイン設置場所で変わらないだろうということで、ファクトリー側の北2条、ファクトリーとの間、北3条、施設と駐車場なのだが、公園に関しては公園の全体計画の方で出入り口が変わる気がするので、それを考えると一概には言えない。

(事務局)

- ・最終的には、公園側と協議をして決めさせていただくことになるかと思う。一旦は案として施設側から提案させていただくことはできる。

(小澤委員長)

- ・我々としては、地域住民への対応を考えると、あえてTA3-3 付近からアプローチさせることはないのではないかと考えている。

(角委員)

- ・サインのカラーについてだが、札幌市の景観色のシャドーグリーンがあるので、この色ではないかなと思う。

(小澤委員長)

- ・大きな話になるが、様々な歴史的資源とのネットワーク化を考えた時に、こういったサインも共通言語のように、あってもいいのではないかなと思うが、そういったものはないのか。

(事務局)

- ・今のところはない。

(平井副委員長)

- ・設置の仕方、大きさ形状などを他の施設でも共通にすれば、例えば永山邸にあったものと同じサインがあるから、あそこには何かあるぞと、外国人観光客でも直感的にわかるのではないかな。

(小澤委員長)

- ・ここで設置できるかということよりも、他の施設へ持っていった時も、使えそうな大きさや傾斜などで考えておきたい。
- ・観光客のこともあるし、インフォメーションなどもばらばらになるのではなく、決められたものがあれば、それなりに浸透してくると街を歩いていて似たものを見かけた時に「ここには何かある」ということがわかりやすいかなと思う。

(事務局)

- ・文化財施設共通のものとして考える機会になればありがたいと思う。

(小澤委員長)

- ・ノーザンクロスから出してもらった資料-5 の 12 ページ目に、家具・什器類のデザインイメージスキームがあるが、カフェの業者ごとに様々な趣向がある中、自由にしておくのか、ある程度の範囲の中で考えて欲しいということにするのか。
- ・先ほどの階段下とホールとの目線にも絡んでくるかなと思うが。

(角委員)

- ・基本的には指定管理者が決まってからでないと決められない話であるので、「指定管理者の時は協議する」等、仕様書の方などにも関わることもかもしれないので、一言入れておいたほうがいいと思う。
- ・例えば私が関わった小熊邸倶楽部の時には、内装・家具などを決める際は最初からきちんと相談させていただき、我々が提案したものは高すぎて購入できないと言われ、少しランクを落として欲しいなど、ほぼ毎日のように話し合いを重ねた。
- ・最終的に、小熊邸のイメージに合うものということで、製品のカタログを持って来て選び、我々も合意して、ということをやっていた。旧永山邸、旧三菱鉱業寮の場合も、そういうシステムができればいいかなと思う。

(平井副委員長)

- ・テラス部分に関する前の発言の修正・補足だが、地表面を覆う材料のところどころに小さな隙間があると、女性用の靴のヒールが引っかかるという問題が生じたという件を知っている。これを避けるには、やはり浸透性の素材を使用するのが無難かなと思う。
- ・耐震補強で 2 点ほどあるのだが、是非耐久性を優先してやって欲しい。例を言うと、床下の環境で、総換気量は確保していても、空気が上手く流れず淀んでしまう場所があると、万が一水が入ってきた時に、高湿度の空気が抜けないということがしばしば起こるので、布基礎に孔を開けても構造上支障のないところにはできるだけ開けて空気を流してもらいたい。
- ・大事なことは、現状以下になることを避けることで、補強すること以前に、今より弱くしないということが一番気を使うことなので、それを是非優先してやってほしい。
- ・経験から、こういうものは改修を始めると、絶対当初の設計通りにいかないものである。次々と設計変更が出るので、限られた工期の中でやるときには、すばやく意思決定して、現

場で見ながらどんどん設計変更できるような方式をつくっておかないと、滞ってしまって工期に間に合わなくなる危険性がかなり現実的にあると思われる。市の場合は民間と違い、予算執行の期限を延ばすことが難しいと思うので、設計管理者と札幌市がスムーズに行える体制をご検討いただければと思う。

(ノーザンクロス)

- ・後半部分に少し運営関係の話をしていただいたが、この段階ではまだはっきりと書けない部分があり、考え方を示しているところである。
- ・具体的な開館時間等や料金設定については、今後は市の内部で最終的に条例化を含め決定していく中で、こういう方向で検討していったら良いかなど、何かあればお聞かせ願いたい。

(池ノ上委員)

- ・豊平館の考え方がある程度反映されているのかと思うが、豊平館の指定管理者を決定する際に、角委員も含め委員会で話し合われていた内容が、いざ出来たときにあまり理解されなかった、ということがあった。
- ・ひとつには、指定管理者として選び出す基準が、例えば組織やオペレーションの堅牢性といった部分が評価されることになると思うが、一方で、市民や住民の人達を含めてこの施設を具体化し、様々な新しい価値観をつむぎ出していくということが大切かと思う。しかし、そういったなかなか評価できない、そういった求めにくい部分を、なんとか入れ込めないかと考えている。
- ・例えば、管理運営の考え方にもある「マネジャー」に関して、豊平館のときも人というところで担保しようと思ったが、入札時に人という部分を評価しきれなかった。マネジャーの経歴書まで出してもらおうのか、といったところをどこまでできるのかと思う。
- ・入館料や利用料に関して、単に管理のお金ではなく、使途を限定できるかは分からないが、創造的な資金として使えるか、といった部分もある。
- ・単に施設としてしっかり管理してもらおうのか、あるいは市民や観光客を見据えて運営していくのかなど、プラスアルファが重要になってくるかと思う。

(小澤委員長)

- ・重要な部分だと思うので、意見交換させていただきながら、進めさせていただきたいと思う。

6. その他

・永山記念公園の改修計画について（資料-7）

(札幌市中央区土木部)

- ・冒頭に事務局から住民説明会の説明があったが、昨年10月から月1回のペースで、公園改修計画の説明会を行った。先ほどの話にも出ていた隣のマンションの住民の方を含めた町内会の方や、お子様連れの若い方もおり、毎回20名を超える参加をいただき、非常に興味・関心の高いイメージであった。
- ・そこで出た意見として、大人からは、「今の公園がとても好きなので何も変えなくていい」というものがあった。ただし、この地域に多く住む若い子育て世代からは、子供向けの機能が欲しいという声もあった。
- ・小学校や児童会館などの施設にもヒアリングを行い、最終的には、資料7の公園基本設計の図面のように一旦まとめている。
- ・再整備のテーマとしては、今のそのまま風景を残しながら、機能を見直すということで、緑の一定程度残し、老朽化した施設の修繕や、地域からの要望が多かった遊びの機能を盛り込みつつ、機能を見直している。
- ・図面を見ると、出入り口を含め、現在の形状とほぼ変わらない印象を受けるかと思う。基本的な動線については、ほぼ変わらないと判断していただいて結構かと思うが、バリアフリーや、園路の幅といったものについては、利用しやすいように改修している。
- ・主な変更点としては、水遊び場を園の中心部に移動し、幼児向け遊具コーナーを設けた。
- ・庭園部分を囲う柵については賛否両論あり、なくしたほうが良いのではないかという意見もあったが、利用されている地域の方の声を聴くと、柵があることで明確に文化財というものを囲む庭園の聖域のような良い目安になるので、残していこうという結論を導いている。

- ・柵について過去の地番図を探して見ると、現在よりももう少し内側に詰めるかたちになる。三菱が所有している当時の地番の形状に近いものに戻ることになる。
- ・樹木について、地域の方々は木を間引くという概念について反対はあまりなかったが、公園や出来る更に前の、永山武四郎邸があった当時からある樹木については大切にして欲しいということであった。我々としては、まず安全を確保し、公園内のエリアごとに樹木の目的を見極めながら、いっぺんにではなく、ある程度時間をかけて少しずつ間引きや手入れをしていこうと考えている。その中で、危ないものや成長が良くないものについては、我々で判断していく。
- ・これで一旦基本設計が終わり、これから実施設計に入っていくが、せっかく基本設計の住民説明会の場に何度も足を運んでいただいた方々が数多くいらっしゃったので、これを機会に公園サポーターの募集をし、土木部が中心となり、これから一緒に公園の使用や、木を伐るタイミングなどについても、行政だけでなく興味を持った住民の方々に参加していただこうと考えている。
- ・来年度から、まずは花植えや一緒に行ったり、野鳥の観察会を一緒にしたり、公園を利用する側からも、住民と手を組んでやっていけるような仕掛けをしていきたいと考えている。
- ・これでできた輪を大切にしながら、反感を買われたりしないように、上手く協調しながらやっていきたいと考えている。

(小澤委員長)

- ・ファクトリー側からの視認性を高めたほうが良いという意見が去年から出ていたが、その辺の検討の余地はあるということか。

(札幌市中央区土木部)

- ・ファクトリー側は桜並木になっているので、この辺りは現地で見学会を行った際には、直接建物の視認性と言ってしまうと一部嫌がる方々がいらっしゃったので、ある程度間隔を間引くことで、間接的に視認性があがってくるかと思う。

(川上委員)

- ・公園サポーターというのは、永山公園の改修が終わっても継続していくイメージで良いのか。

(札幌市中央区土木部)

- ・来年度以降、おそらく2年位は行政主導で様々なイベントをやっていくが、その後は上手くいけば中心人物のような人が出て、活動を始めていってくれば良いなという思いでやっていく予定である。

(川上委員)

- ・おそらく永山邸も、公園と一体となって色々とやっていかなければならないと思うので、市民の方々の意見を頂きながらとなると、この公園サポーターというのは非常に大きな応援団になると思っている。

7. 閉会

(事務局)

- ・次回の第4回検討委員会は、3月を予定している。